

高山市の平和への取組み

平成27年9月24日
高山市市民活動推進課

高山市の平和への取り組み

戦時中の高山(P3～)

受け継がれる伝統文化と自然(P7～)

国際観光の振興(外国人観光客誘致)(P11～)

国際交流・国際理解の推進(P16～)

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)(P27～)

戦時中の高山①(飛騨高山 明治・大正・昭和史より抜粋)

■日清戦争

明治27年8月1日～28年3月まで、日清戦争が起こり、岐阜県からは4,932人が出征しました。戦死者は岐阜県で238人、大野郡からは軍人339人が出征して戦死1、傷病死15人を数えました。

■日露戦争

明治37年2月、日露戦争が始まりました。5月9日、いよいよ第九師団に動員が下り、高山町で74人、大野郡で200余人が召集されました。大野郡内の二カ年にわたる召集人員は1,705人、戦死者167人、病死59人を数えます。

■日中戦争から太平洋戦争へ

市制施行を行った翌年の昭和12年、7月7日に「盧溝橋事件」が起き日中戦争が始まりました。7月27日 18人の動員と自動車9台が徴発されました。8月18日 第二次応召、8月25日には深夜に204人の召集、9月10日にも201人召集されました。また、8月31日から9月にかけて、予備、後備兵として462人が大動員されました。日本は軍事優先となり、同年、食糧増産を目的に上野平の開墾がはじまりました。中学生、各種団体、会社の職員などたくさんの方が動員されて開墾にあたったのです。

戦時中の高山②(飛騨高山 明治・大正・昭和史より抜粋)

■国民総動員

昭和13年4月1日、総動員法が公布されて体制強化がはかられました。高山市全体が国防体制一色に変わってゆくのでした。慰問袋の発送や、野兔毛皮の献納、傷痍軍人の慰問、小学生の献金など援護体制はどんどん強化されてゆきます。

昭和16年2月には、愛国婦人会が軍用機「愛婦号」を献納するために募金し、640円を集めました。

■陸軍航空研究所の建設

昭和16年、陸軍航空技術研究所が立川から乗鞍岳に移されました。飛行機が5千メートル以上の高度を飛ぶためには、精度の高い過給機と、零下40度以下での性能研究が必要となったためです。平湯峠から頂上まで、16キロメートルの道路を陸軍が設置し、それは戦後乗鞍観光へとつながったのです。



兵士に送る慰問袋を集める国防婦人会



乗鞍にあった陸軍航空研究所跡

戦時中の高山③(飛騨高山 明治・大正・昭和史より抜粋)

■金属類の供出

昭和17年には金属類の不足に伴い、寺の梵鐘などまで供出されました。昭和19年には、軍神広瀬中佐の銅像も供出されました。

また、同年、市は全市民に呼びかけて献納資金を集め、「高山市民号」二機を贈りました。飛騨管内では他に、飛騨朝日号、飛騨船津号、久々野村民号、吉城郡一、二号、益田号、大野郡翼賛号が各町村から献納されています。学徒動員もはじまり、生徒は軍需工場で働くよう動員されました。9月30日、マリアナ群島のテナアン島で郷土部隊が玉砕をし、高山関係の戦死者は44人に及びました。



別院に集められた梵鐘【昭和17年】



高山市民が贈った「高山市民号」

戦時中の高山④(飛騨高山 明治・大正・昭和史より抜粋)

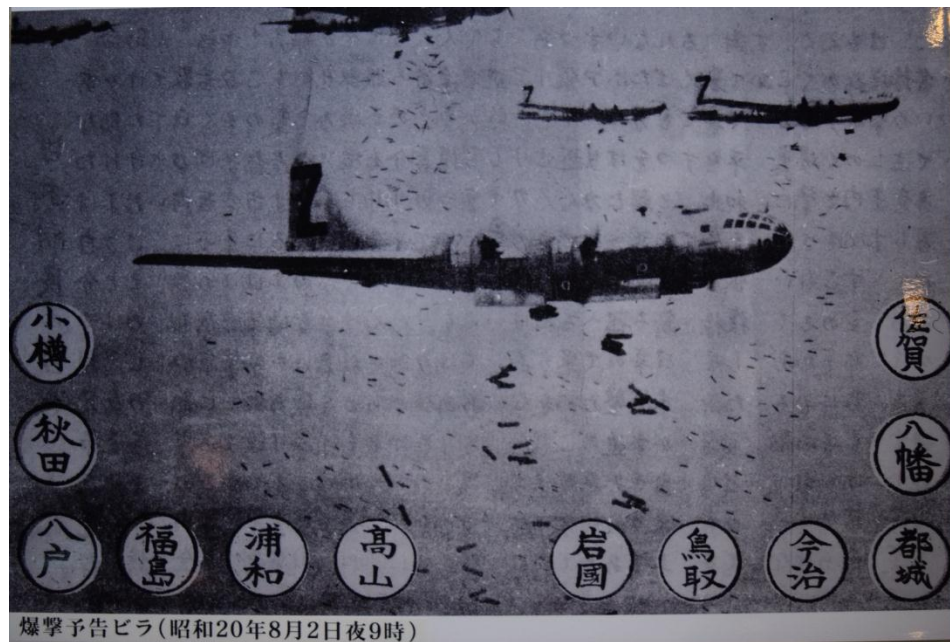
■高山に爆撃予告ビラ

昭和20年1月3日、マリアナ諸島から発進したB29が90機名古屋方面にきて、高山にも空襲警報が発令されました。1月23日には70機が名古屋までやってきました。空襲におびえながら市民は銃後の奉仕を続けています。同年二月、鈴鹿工廠は米軍の爆撃を避けるため高山市へ疎開し、機関銃製造の工作機械を高山へ持ち込みました。

8月2日、夜9時半頃に爆撃予告ビラがまかれ、高山市民は焼夷弾が落ちたのではないかとびっくりしました。8月6日には広島に、9日には、長崎に原子爆弾が落とされました。8月15日、連合軍に無条件降伏して長かった戦争はようやく終わったのです。



木製の飛行機部品を作る



爆撃予告ビラ(昭和20年8月2日夜9時)

爆撃予告ビラ(昭和20年8月2日)

受け継がれる伝統文化と自然①

■伝統文化(祭、屋台)

高山祭は4月14日、15日の日枝神社の山王祭と、10月9日、10日の桜山八幡宮の八幡祭の総称。日本三大美祭の一つに数えられ、16世紀後半から続いている。

- ・ 高山祭屋台は、国の重要有形民俗文化財(春祭12台、秋祭11台)
- ・ 高山祭は、国の重要無形民俗文化財

飛騨一宮水無神社例祭、久々野祭、荒城神社例祭、荘川神社例祭などのほか、各地域にも数多くの歴史的な祭りがあり、県指定重要無形文化財となっている獅子舞や地芝居が奉納される。



春の高山祭



奥飛騨温泉郷温 鶏芸

受け継がれる伝統文化と自然②

■古い町並(国選定重要伝統的建造物群保存地区等)



三町伝統的建造物群保存地区
(約4.4ヘクタール) 昭和52年指定

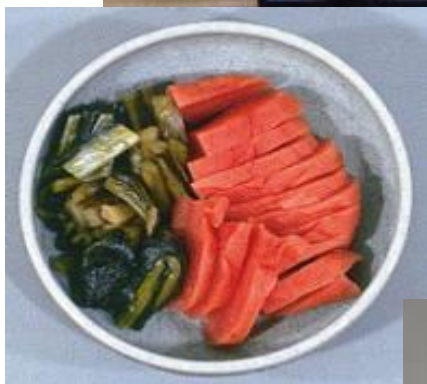
下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
(約6.6ヘクタール) 平成16年指定



受け継がれる伝統文化と自然③

■食文化(400年の食の歴史、農畜産物)

精進料理、山菜料理、朴葉みそ、飛騨中華、みたらしだんご
飛騨牛、漬物、地酒、野菜、飛騨そば、くだもの など



受け継がれる伝統文化と自然④

■自然

- ・乗鞍スカイライン(日本で最も高いところを走る山岳道路)
- ・北アルプス(中部山岳国立公園)登山
- ・新穂高ロープウェイ(2,200メートルの雲上へ)
- ・乗鞍山麓五色ヶ原の森(中部山岳乗鞍岳の裾野に広がる原生林)
- ・宇津江四十八滝県立自然公園(森林浴スポット)
- ・飛騨せせらぎ街道(自然の息吹が感じられるドライブルート)

など



乗鞍スカイライン



飛騨せせらぎ街道



新穂高ロープウェイ

国際観光の振興(外国人観光客誘致)①

■国際観光が平和へ果たす役割

「観光は平和へのパスポート(Tourism; Passport to Peace)」

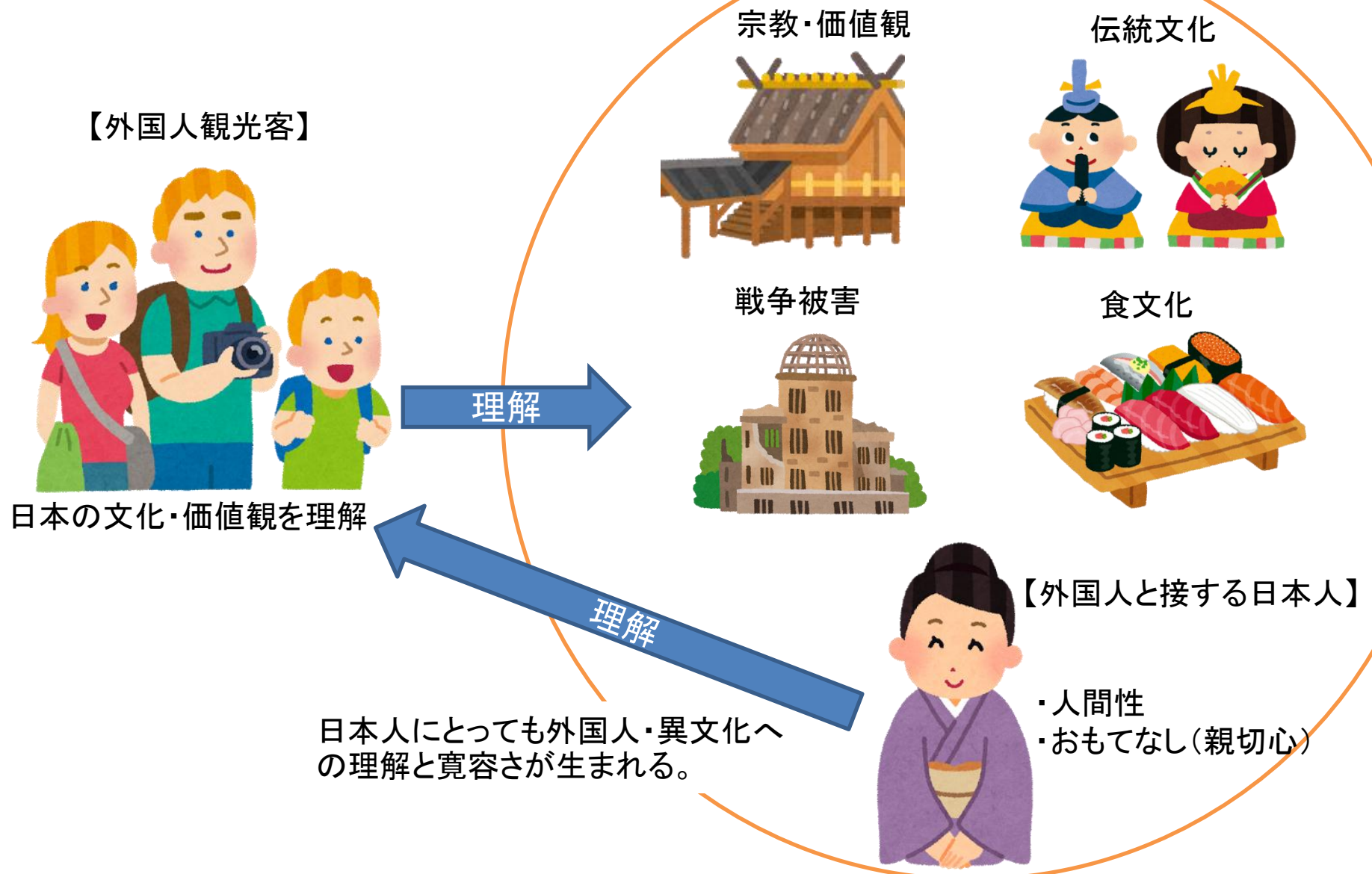
国際連合は、昭和41年11月4日、第21回総会において、1967年を「国際観光年」に指定する旨の決議を行なうとともに、世界各国に対し、観光が社会、文化、教育、経済等に果たす役割を広く唱導し、かつ、観光の振興に関する諸施策を推進するよう要請した。

観光は、今般の国際連合の決議にもあるように、「すべての人々およびすべての国の政府の賞賛と奨励に値する基本的、かつ、最も望ましい人間活動」であり、国際観光の側面では、重要な貿易外収入として国際収支の改善に寄与し、「発展途上の国々の経済成長の上にきわめて重要な貢献」をなすばかりでなく、「世界各国の人々の相互理解を推進し、種々の文明の豊かな遺産に対する知識を豊富にし、また異なる文明の固有の価値をより正しく感得させることによって世界平和の達成」にも大きな役割を果たすものである。国際連合が国際観光年の指定を行なうに当つて「観光は平和へのパスポート(Tourism; Passport to Peace)」というスローガンを定めたのは、まさにこの意味である。

【昭和42年度運輸白書】

国際観光の振興(外国人観光客誘致)②

■国際観光が平和へ果たす役割



国際観光の振興(外国人観光客誘致)③

■高山市の状況

国際観光都市宣言の実施

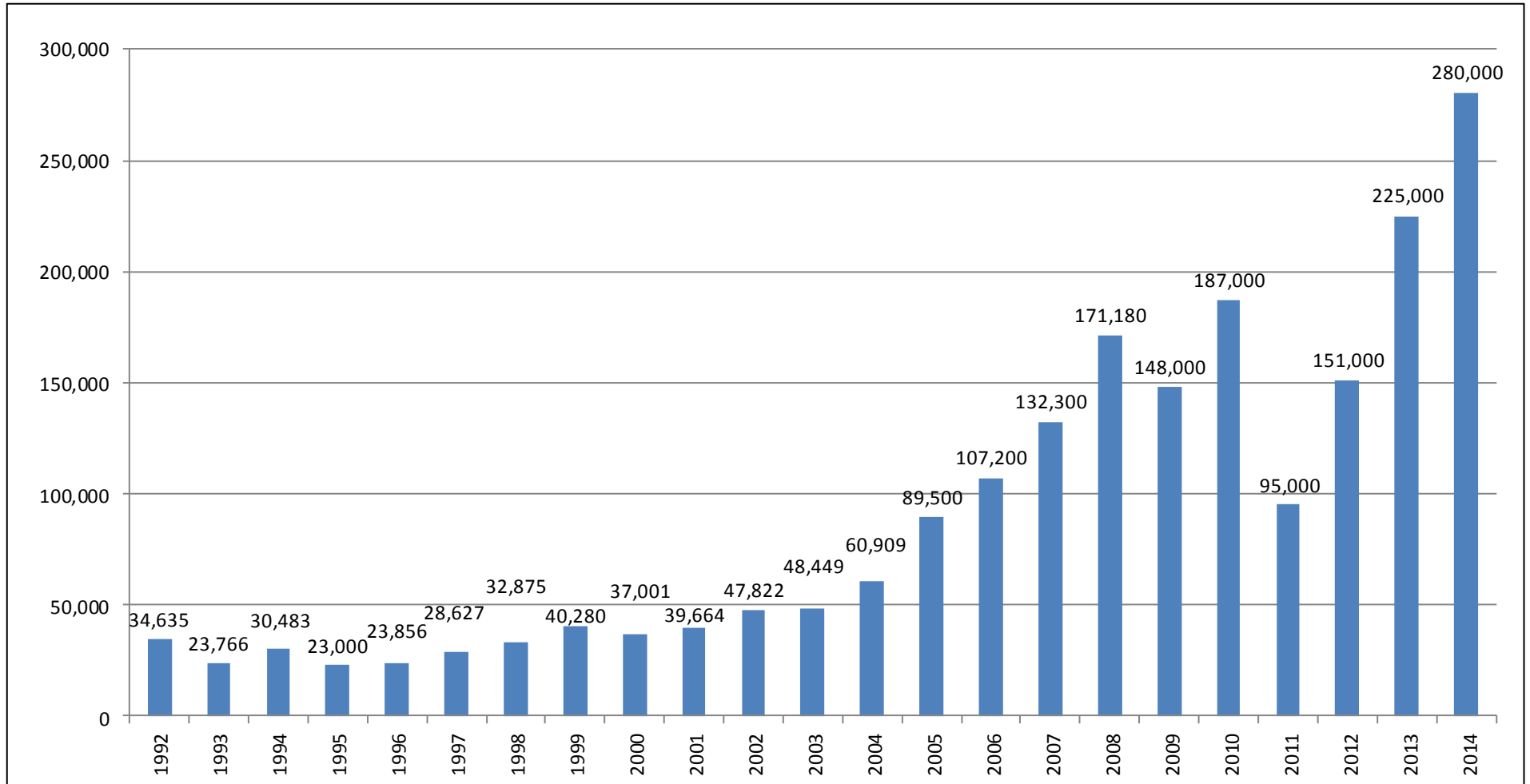
○国際観光都市宣言

昭和61年4月11日
宣言

美しい自然と歴史に育まれた格調の高い伝統的文化都市・高山市を、日本の心のふるさととして広く交流を通じ、諸外国に理解を求めるとともに、飛騨高山独自の魅力ある都市づくりを進め、受け入れ体制の確立を図り、市民参加を基調とした国際親善を推進するため、ここに高山市は「国際観光都市」を宣言します。

国際観光の振興(外国人観光客誘致)④

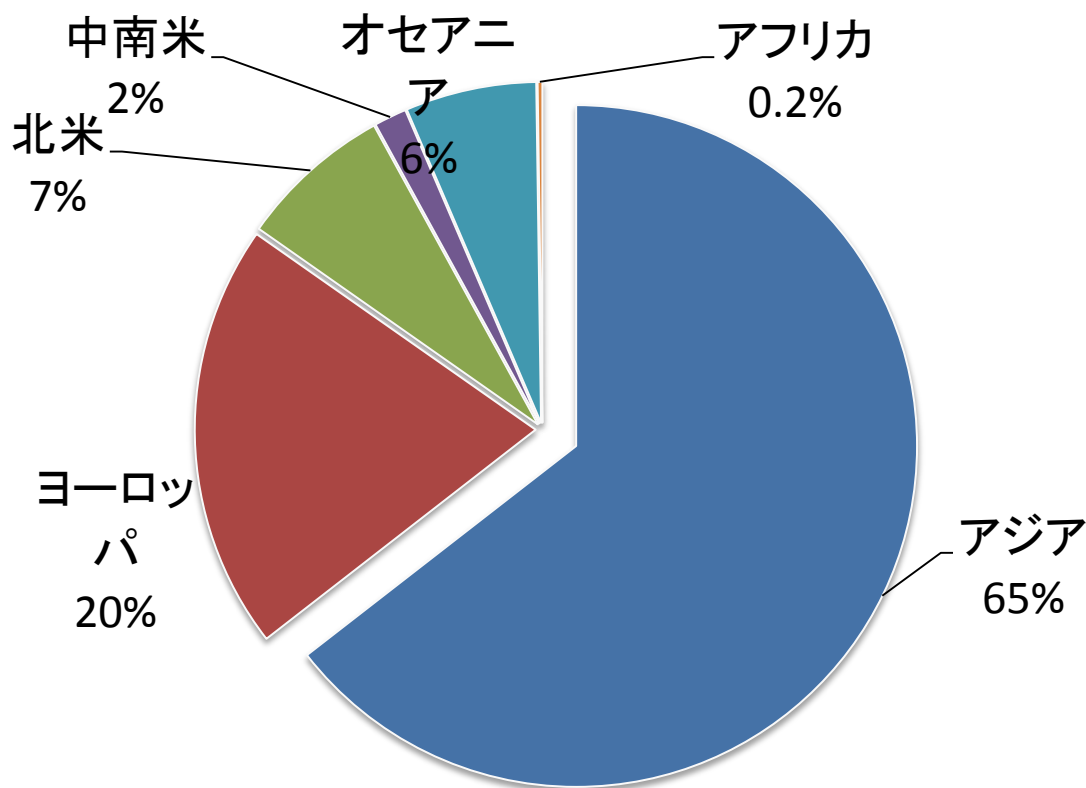
外国人観光客数の推移(宿泊者ベース)



高山市を訪れる外国人観光客は、海外での誘客宣伝事業等の効果があり年々増加傾向にある。平成23年(2011年)は東日本大震災の影響により半減したものの、平成25年(2013年)は、初めて20万人を超え、過去最高を記録した。(平成17年以降は合併後の数値)

国際観光の振興(外国人観光客誘致)⑤

高山市 外国人観光客の国・地域別の割合(H26年 宿泊者ベース) 平成26年 観光統計



国・地域	人数	割合
台湾	66,296	24%
タイ	27,631	10%
香港	22,248	8%
アメリカ	15,873	6%
オーストラリア	14,516	5%
スペイン	11,161	4%
マレーシア	10,200	4%
シンガポール	8,842	3%
フランス	8,715	3%
イギリス	7,542	3%
その他	86,976	31%
合計	280,000	

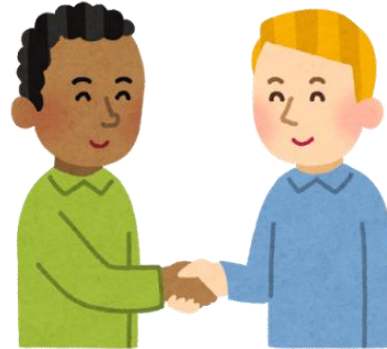
国際交流・国際理解の推進①

■国際交流・国際理解の推進が世界平和に果たす役割

異なった文化・宗教・価値観を持つ様々な国・地域の人々の交流



一緒にスポーツする



おしゃべりする



一緒にその国の料理を食べる

相互理解



国際交流・国際理解の推進②

■高山市の状況(海外姉妹・友好都市との交流)

戦後15年の昭和35年(1960年)7月にアメリカ合衆国のデンバー市と姉妹都市提携を締結。その後、平成14年(2002年)3月に中国の麗江市、平成24年(2012年)9月にルーマニアのシビウ市、平成25年(2013年)8月にペルー共和国ウルバンバ郡と友好都市提携を締結し、様々な交流を実施している。



国際交流・国際理解の推進③

■高山市の状況(海外姉妹・友好都市との交流)

デンバー市(アメリカ合衆国:昭和35年(1960年)7月姉妹都市提携)

■高校生の相互派遣(高山・デンバー友好協会)



■市民海外派遣(高山市・飛騨高山国際協会)



■周年記念事業(高山・デンバー友好協会)



■コロラド大学への研修医派遣(高山・デンバー友好協会)



姉妹都市提携50周年記念
デンバー市公式訪問団受入れ(H22)

国際交流・国際理解の推進④

■高山市の状況(海外姉妹・友好都市との交流)

麗江市(中国:平成14年(2002年)3月友好都市提携)

■自治体研修生の受入



■周年記念事業



友好都市提携10周年記念
麗江市公式訪問団受入れ(H24)

■市民海外派遣(高山市・飛騨高山国際協会)



国際交流・国際理解の推進⑤

■高山市の状況(海外姉妹・友好都市との交流)

シビウ市(ルーマニア)平成24年(2012年)9月友好都市提携

■締結文書において、友好都市提携の目的に平和への寄与を明記

【抜粋】

○ルーマニア国シビウ市との間の友好都市提携

平成24年9月4日
(その1)

ルーマニア国シビウ市と日本国高山市
友好都市提携協定書

両市の代表であるルーマニア国シビウ市長のクラウス・ウエルナー・ヨハニスと日本国高山市長の國島芳明は両市の友好親善を推進するため、友好都市提携を締結する。

両市は、**世界の自由と平和に寄与するために**、両市民の友情を深めるとともに、各種分野における交流を促進する。

以上の合意を確認するため、この協定書に署名する。

■文化交流事業(飛騨高山文化芸術祭こだま〜れ2013 シビウ市・高山市 ダンスの共演)



■シビウ国際演劇祭へのボランティア派遣



国際交流・国際理解の推進⑥

■高山市の状況(海外姉妹・友好都市との交流)

ウルバンバ市(ペルー共和国)平成25年(2013年)8月友好都市提携

■締結文書において、友好都市提携の目的に平和への寄与を明記

【抜粋】

○ペルー共和国クスコ県ウルバンバ郡との間の友好都市提携

平成25年8月25日

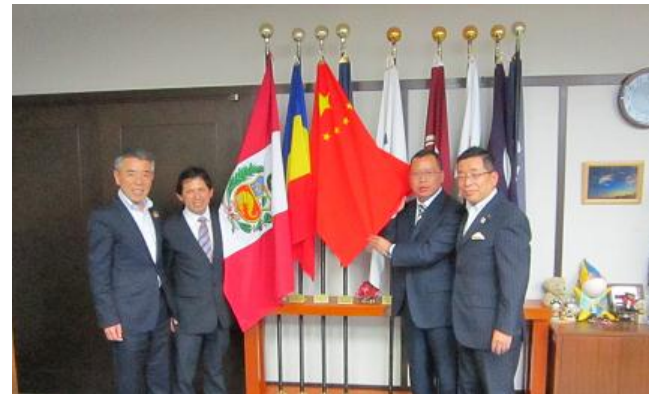
日本国岐阜県高山市とペルー共和国クスコ県ウルバンバ郡
友好都市提携協定書

日本とペルー、高山市とウルバンバ郡の関係の中で、高山市とウルバンバ郡との友好都市提携の締結について、2013年6月21日に高山市議会にて議第45号として議決、2013年7月4日にウルバンバ郡地方自治体にて自治体評議契約番号084-2013-MPUとして承認されたことに基づき、それぞれの平和とさらなる友好交流を推進する。また、双方の社会・文化・歴史的な交流を推進するとともに、互いの繁栄と発展のために、双方が主導権を持つこととする。さらに、民主主義的価値観の普及に貢献し、**平和共存と連携のモデルとなるために**、互いに関心のある分野で知識・経験を生かした効果的な交流のための基準や手続きを設定することとする。

■市民ツアーの実施(2013年)



■自治体研修員の受入



国際交流・国際理解の推進⑦

■高山市の状況(その他の海外都市との交流)



昆明市と友好都市提携の意向書に署名

コルマール市(フランス)と平成26年(2014年)11月に経済・観光協力協定を締結したほか、昆明市(中国)、トロワ市(フランス)との都市間交流を推進しています。昆明市とは、平成24年(2012年)4月に友好都市提携の意向書に署名しています。この際、友好都市提携の締結が実現した際には、友好都市同士となる三都市(高山市・デンバー市・昆明市)による平和メッセージが早期に出せるよう準備を進めることに同意しました。



トロワ市



コルマール市

国際交流・国際理解の推進⑧

■高山市の状況(その他の海外都市との交流)

クレモナ市(イタリア)

「飛騨高山文化芸術祭こだま〜れ2013」において、高山の国指定伝統的工芸品の「飛騨春慶」と、バイオリン製作等で世界的に有名なイタリアのクレモナ市で製作された「弦楽器」とのコラボレーションにより、飛騨春慶弦楽器4丁を製作。

二つの国の伝統文化の融合によって製作された楽器として、高山市の新たな文化芸術の発信に活用している。

高山市の飛騨春慶

イタリア・クレモナ市の弦楽器



リカルド・ベルゴンツィ氏



国際交流・国際理解の推進⑨

■高山市の状況(国際交流団体)

飛騨高山国際協会

(目的)

第2条 協会は、高山市民が国際的に学術及び文化等幅広い交流を積極的に推進し、国際化に対応できる文化都市づくりと国際親善を図り、ひいては世界平和に寄与することを目的とする。

(主な取組み)

- ・文化交流事業の実施
- ・異文化ふれあい講座開催(市民外国語講座・日本語講座)
- ・英語スピーチコンテスト開催
- ・シビウ国際演劇祭ボランティア派遣
- ・海外からの団体の受入
- ・ボランティア通訳派遣
- ・ホームステイ家庭登録制度の設置

(会員)

会員は、市内の国際交流・協力団体、国際交流部門を持つ団体、市民団体等から組織されており、様々な国際交流事業を実施しています。

設立日:昭和62年7月24日

事務局:高山市海外戦略課

高山・デンバー友好協会

(目的)

第1条 本会は、高山市とデンバー市との都市提携に伴い、国際間の理解と両市の市民相互の親善友好を密接にし、あわせて文化産業の発展に資するため、デンバー市を中心としたコロラド州内各機関との各種親善事業を計画推進することにより、真に意義ある民間相互交流の窓口となることを目的とする。

(主な取組み)

- ・文化交流事業
- ・高校生の相互派遣
- ・コロラド大学への高山市内在勤研修医派遣事業
- ・訪問団の相互派遣
- ・市民ツアーの実施

(会員)

会員は、個人会員、家族会員、団体会員からなり、デンバー市のデンバー高山姉妹都市委員会との間で、市民レベルで行っている。

設立日:昭和52年3月26日

事務局:高山市海外戦略課

国際交流・国際理解の推進⑩

■外国からの職員の受入、海外への市職員の派遣

国際交流員の招聘



市内で講演する国際交流員

高山市の友好都市である中国雲南省麗江市等との交流を推進し、国際交流・国際理解を促進するために、平成13年度から国際交流員を招致している。市民外国語講座の中国語講師、国際交流事務、在住中国人からの相談対応、通訳、各種資料翻訳など多様な業務に携わっている。

海外自治体職員の受入



中国麗江市との人的交流の一環として、日本の地方行財政制度などの研修を実施し、両市の友好親善と麗江市の発展に寄与することを目的に、平成16年度より、研修員を受け入れている。帰国時には、「研修修了証書」を授与するとともに、「中国雲南省麗江市・高山市親善交流大使」を委嘱している。

また、ペルー共和国ウルバンバ郡と平成25年に締結した友好都市提携に基づく人材育成と交流のため、平成27年度はウルバンバ郡からも研修員を受入れている。

市職員の海外派遣

(派遣実績)

- ・自治体国際化協会北京事務所
- ・自治体国際化協会パリ事務所
- ・国際観光振興機構香港事務所
- ・国際観光振興機構パリ事務所
- ・デンバー市(姉妹都市)

国際交流・国際理解の推進⑪

■外国文化紹介イベントの開催

第一回中国文化観光ウィークin高山(平成25年11月)



第二回中国文化観光ウィークin高山(平成26年4月)



日韓伝統音楽の共演(平成24年11月)



コリアウィークin高山(平成27年1月)



啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)①

■「高山市民憲章」の制定(昭和41年11月1日)

高山市では、昭和41年に「高山市民憲章」を制定して以来、さまざまな組織が朗唱運動や実践活動を通じてその具現化に尽力されてきました。長年にわたるこうした活動が実を結び、高山市は住む人にとっても訪れる人にとっても、安全安心で豊かな自然と伝統文化が息づく国際観光都市へと成長してきました。

わたくしたちは乗鞍(のりくら)のふもと

山(やま)も水(みず)もうつくしい飛騨高山(ひだたかやま)の市民です。

- うつくしい郷土(きょうど)に生きるわたくしたちの期待(きたい)とねがいをこめて、この憲章(けんしょう)を定(さだ)めます。
- 全市民は力をあわせて、この憲章(けんしょう)を守り、理想(りそう)のまちを建設(けんせつ)しましょう。

たがいに信(しん)じ、助(たす)けあい

心(こころ)のなかにもきれいな花(はな)を咲(さ)かせましょう。

- 礼儀(れいぎ)を守(まも)り、感謝(かんしゃ)の念(ねん)を深(ふか)め、たびの人をあたたくむかえる。
- みんなが仲(なか)よくつきあい、他人(たにん)のわたくしごとをとやかくいわない。
- 老人(ろうじん)をうやまい、恵(めぐ)まれない人をいたわり、進(すす)んで社会(しゃかい)のためにつくす。

環境(かんきょう)をととのえ、きまりを守り

みんなのしあわせを大事(だいじ)にしましょう。

- 公害(こうがい)をなくし、道(みち)やみぞ、川(かわ)をきれいにし、ごみは必(かなら)ずごみ箱(ばこ)に入(い)れる。
- 城山(しろやま)の木(き)や小鳥(ことり)、宮川(みやがわ)の魚(さかな)などをかわいがり、まちを花(はな)でかざる。
- 時を大切(たいせつ)にし、資源(しげん)を愛(あい)し、交通道德(こうつうどうとく)を守り、ひとのめいわくになることはしない。

(続く)

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)②

■「高山市民憲章」の制定(昭和41年11月1日)

からだをきたえ、元気(げんき)で働(はたら)き、
明(あか)るい豊(ゆた)かなまちをきずきましょう。

- 衛生(えいせい)に注意(ちゅうい)し、スポーツを楽(たの)しみ、健康(けんこう)なからだをつくる。
- 働(はたら)くことに喜(よろこ)びをもち、仕事(しごと)の場(ば)を明るくして、能率(のうりつ)をたかめる。
- 郷土(きょうど)の産業(さんぎょう)に望(のぞ)みをかけ、その発展(はってん)に力をあわせる。

文化(ぶんか)をたつとび、伝統(でんとう)を生かし、
正しい教養(きょうよう)を身につけましょう。

- 伝統ある高山の文化に深い愛情(あいじょう)をもち、文化財(ぶんかざい)を尊重(そんちょう)する。
- 文化諸活動(ぶんかしょかつどう)を盛(さか)んにして、友愛(ゆうあい)を深め、品性(ひんせい)の向上(こうじょう)に役立(やくだ)てる。
- 国際理解(こくさいりかい)をたかめ、時代(じだい)の進歩(しんぽ)に歩調(ほちょう)をあわせる。

子どもを愛し、健(すこ)やかに育て、
夢(ゆめ)と誇(ほこ)りをもたせましょう。

- こどもの将来(しょうらい)をよく考えて、幼(おさな)いときからしっかり家庭(かてい)のしつけをする。
- 子ども会の活動(かつどう)を見守(みまも)り、こどもの自主性(じしゅせい)を正しく育(そだ)てる。
- 子どもは社会(しゃかい)の子、よい環境(かんきょう)をあたえ、みんなのあたたかい心でみちびく。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)③

■「高山市の歌」の制定(昭和41年11月1日)

「高山市民憲章」と同じ年に制定された「高山市の歌」においては、「平和」「歴史」「希望」という歌詞が盛り込まれており、それらはまさに高山市が将来にわたって目指すべき姿であると言えます。

1 しろがねの 雪のアルプス 真向いに
紫匂う 朝がすみ
百重(ももえ)の山を めぐらして
人の和清く 展(ひら)けゆく
平和の都 高山市

2 宮川の 瀬音(せおと)清らに さみどりの
柳をひたし ゆくところ
偲(しの)ぶにあまる 数々の
史蹟にかおる 世々のあと
歴史の都 高山市

3 城山の 花にもみじに 春秋の
祭も床(ゆか)し うまし郷土(さと)
今躍進の 意気あらた
文化産業 栄えゆく
希望の都 高山市

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)④

■高山市人権施策推進指針(平成22年3月策定)より抜粋

2. 基本的な方針

(1) 目標

人権に関する施策を推進するにあたっての目標を次のとおり定めます。

「誰もが 個人として尊重され

安全に安心して快適に心ゆたかに生きられるまち」

一人ひとりが、人間としての尊厳が守られ、自由に行動でき、等しく社会活動に参加する機会を有し、様々なふれあいや交流のなかで暮らせるまちとなるようにという思いを込めています。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑤

■高山市人権施策推進指針(平成22年3月策定)より抜粋

VI. 外国人

【現状と課題】

- ・わが国は、「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」(人種差別撤廃条約)に加入しています。「日本国憲法」では、日本に在留する外国人についても、日本国民のみを対象としていると解させるものを除き、等しく基本的人権の享有を保障しています。在留する外国人は年々増加しています。
- ・市では、昭和61年に「国際観光都市宣言」を宣言して以来、外国人観光客の誘致に積極的に取り組んでいます。高山市を訪れた外国人は、平成15年までは5万人以下でしたが、近年急激に増加し、平成20年は17万人を超えています。

また、観光客向けの市内散策マップは9言語、ホームページは12言語で作成しているほか、市街地に設置している各施設への誘導案内表示等は5言語で標記するなど、言語の違いによるバリアをできるだけ取り除く取り組みを進めています。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑥

■平和首長会議への加盟・参画

高山市は、平成22年5月に平和首長会議に加盟し、世界恒久平和の実現の取組みに参画しています。

【概要】

広島市・長崎市は1945(昭和20)年8月、原子爆弾の投下により、一瞬にして廃虚と化し、数多くの尊い命が奪われました。原子爆弾は、戦後60年以上経過した現在でも、放射線による後障害や精神的な苦しみを多くの市民に残しています。このような原子爆弾による悲劇が二度と地球上で繰り返されることのないよう、広島・長崎両市は一貫して世界に核兵器の非人道性を訴え、核兵器の廃絶を求め続けてきました。

1982(昭和57)年6月24日、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長(当時)が、世界の都市が国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り開こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、広島・長崎両市長から世界各国の市長宛てにこの計画への賛同を求めました。

平和首長会議は、この趣旨に賛同する都市(自治体)で構成された機構です。1991年に国連経済社会理事会のNGOに登録されています。

現在、世界161カ国・地域6,779都市の賛同を得ています。(2015(平成27)年8月1日現在)

【目的】

平和首長会議は、世界の都市が緊密な連携を築くことによって、核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器廃絶を実現させるとともに、人類の共存を脅かす飢餓、貧困、難民、人権などの諸問題の解決、さらには環境保護のために努力することによって世界恒久平和の実現に寄与することを目的としています。

(平和首長会議HPより)

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑦

■「高山市平和の日」の制定

○高山市平和の日

平成25年9月27日
告示第117号

9月21日を「高山市平和の日」として制定したので、告示する。

先の大戦から月日が経過し、悲惨な戦争の記憶が薄れる中、高山市民憲章と高山市の歌の理念のもとに、改めて市民一人ひとりが守り引き継ぐべき美しい郷土や平和の大切さについて考え、家族や友人、地域などで語り合う機会が必要となっています。

一方、国外では、現在も紛争や飢餓、貧困が絶えず、多くの尊い命が奪われており、これは一刻も早く解決していかなければならない人類共通の課題です。

高山市は、全世界から多くの観光客が訪れる国際観光都市です。国際連合の「観光は平和へのパスポート」という標語や、同じく国際連合が「国際平和デー」に国際平和に関する取組みを世界中の機関、組織、個人に求めていることを考えると、高山市が、人類共通の願いである平和な世界の実現を国内外に訴えていくことが必要です。

こうした状況を踏まえ、平成25年9月27日に「国際平和デー」である9月21日を「高山市平和の日」とすることを議会の同意を得て告示しました。

今後は、市民一人ひとりに平和への願いと感謝の気持ちが浸透し、その想いが未来に引き継がれることを目指すとともに、国内外に向けて恒久平和の実現を訴えていきます。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑧

■高山市平和のシンボル「平和への絆」の設置(平成26年9月21日)

高山市における平和のシンボルとして、高山市民の皆様と国内外からお越しになる観光客の皆様の平和への意識醸成を図るために、平成26年9月21日、市役所庁舎前広場に設置しました。制作にあたっては、基本コンセプトを「絆」と定め、人と人の絆「ふれあい」、人と自然の絆「ぬくもり」、都市と都市の絆「ひろがり」を表現しています。

人と人の絆「ふれあい」

格子の一部分を千鳥格子とし、先人から受け継がれ、また未来へ受け継いでいくべき飛騨の匠の技を取り入れることで「人と人の絆」を表現しています。

人と自然の絆「ぬくもり」

一位一刀彫や飛騨春慶などの伝統工芸品を育んできた自然の恵みである木を活用することにより、「人と自然の絆」を表現しています。

都市と都市の絆「ひろがり」

寺院や他の自治体への一斉鐘打の呼びかけなど鉦(かね)の音を通じた都市との連携により、「都市と都市の絆」を表現しています。



啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑨

■高山市平和のシンボル「平和への絆」の設置

(平成26年9月21日に行われた「平和の絆」除幕式における市長あいさつ)【抜粋】

- ・全世界から多くの観光客が訪れる国際観光都市である本市が、平和な世界の実現を国内外に訴えていくことは非常に重要であると考えております。
- ・高山市平和のシンボル「平和への絆」は、「人と人との絆」、「人と自然との絆」、「都市と都市との絆」の3つの絆をコンセプトに製作したものです。全体として、地面からまっすぐに空へ向かって立ち上がっている姿が「平和を希求する意思」を表しています。
- ・また、格子部分の一部を千鳥格子とし、先人から受け継がれ、そして我々が未来へ受け継いでいくべき飛騨の匠の技を取り入れることにより「人と人との絆」を、一位一刀彫や飛騨春慶などの伝統工芸品を育ててきた自然の恵みである木を活用することにより「人と自然との絆」を、寺院や他の自治体への一斉鐘打の呼びかけなど鐘の音を通じた都市との連携により「都市と都市の絆」を表現しています。
- ・このシンボル「平和への絆」を通じて、高山市民の平和への願いを一つにして力強く国内外へ発信していきたいと考えております。
- ・我々大人には「平和な日本」というバトンを次の代にしっかりと受け渡すとともに、「平和な世界の実現」という「夢」を「現実」にしていく責任があります。また、子どもたちには、視野を広げて世界の国々のことを知るとともに、家族や友達を大切にすることがあります。それぞれが、それぞれの役割をしっかりと果たし、一つ一つを積み重ねた結果がもたらす世界は、有史以来誰も経験したことのない平和な世界でしょう。
- ・みなさん、手を取り合ってはじめてみましょう。取り合った手は、一人、また一人と増えていき、そのつながりの輪は、どんどんと大きなものになるでしょう。みなさん、まずは小さなことからはじめてみましょう。小さな取り組みは、その一つ一つが大河の一滴となり、やがて大きなうねりとなるでしょう。
- ・高山市は、市議会をはじめとする市民のみなさんや全国・全世界の自治体などと手を取り合って、争いのない平和な世界を実現するため、様々な取り組みを進めてまいります。高山市は、一つ一つの様々な取り組みを通じて、世界平和に向けた大きなうねりを創り出します。

平成26年9月21日
高山市長 國島 芳明

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑩

■高山市平和のシンボル「平和への絆」の設置

(平成26年9月21日に行われた「平和の絆」除幕式における小中学生代表による「平和へのメッセージ」)

私たちが住んでいる高山は、昔から受け継いできた文化や美しい自然に囲まれたまちです。私は、この高山が大好きです。

私が、このまちで安心して暮らせるのも、そして、友だちと楽しく勉強したり遊んだりできるのも、日本が平和だからです。

でも、世界を見渡すと、ロシアとウクライナのように争っている国がたくさんあります。そのような争いごとが起きることによって、食べ物や住むところがなく困っている人たちがたくさんいます。

私たちにできることは何でしょうか。

私たちができること。それは、感謝の気持ちを忘れず、友だちや家族、そして世界の人たちとの“絆”を深めること。

私たちのふるさと「飛騨高山」には、海外からもたくさんの観光客が訪れます。そんな国々のことを学び、理解し、「おもてなしの心」で接することが、平和な社会への入り口となります。その積み重ねによって、お互いを理解しあい、信頼しあい、絆が深まり、やがて平和な社会が実現するはずです。

私が通っている日枝中学校では、平和学習を通して、戦争の悲惨さや愚かさ、命の尊さを学んでいます。その中で、「自分にできること、自分がやるべきことを考え、今この瞬間を精一杯生きていく。そうすることで、真の平和を築いていく」という願いを強くもつようになりました。

これからも今ある命に感謝し、相手を大切にした行動をとることで、平和な社会を築いていきます。

私たちは願います。この思いが世界中に広がっていくことを。

私たちは誓います。この思いを多くの人々に訴え続けることを。

今日は、「高山市平和の日」です。

ここ高山から、平和を願うみんなの思いを世界に向けて発信します。

平成26年9月21日

児童代表 南小学校 6年 米澤 真菜

生徒代表 日枝中学校3年 神谷 直人

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑪

■高山市平和のシンボル「平和への絆」の鉦の打ち鳴らし

「高山市戦没者追悼式」、「広島市平和記念日」(8月6)、「長崎市平和記念日」(8月9)、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」(8月15日)、「高山市平和の日」(9月21日)、「市制記念日」(11月1日)などに、戦没者への哀悼の意と平和への願いを込め、高山市平和のシンボル「平和への絆」の鉦を打ち鳴らしています。

■一斉鐘打

恒久平和実現への取組みとして、「国際平和デー」であり、「高山市平和の日」でもある9月21日に国連事務総長が日本から寄贈された平和の鐘を打ち鳴らす特別記念行事に賛同し、より多くの方々に平和についてお考えいただくきっかけとするため、寺院、教会など鐘を所有されている市内外の各位のご協力のもと、一斉鐘打を実施しています。



啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑫

高山市平和サミット



市民の皆様には平和について考えていただくため、広島市、長崎市、松本市から関係者を招き、平成26年度に「高山市平和サミット」を開催しました。平成27年度は、高山市の平和都市宣言の作成にあたり、テーマを「平和都市宣言に向けて」とし、被爆地であり、世界規模の平和活動をリードされている広島市と長崎市の両市長を招いて開催することとしています。

八月の歌



朝日新聞社主催の戦争や平和について詠んだ短歌の全国コンテスト「八月の歌」へ共催し、国民の戦争・平和への関心・理解を促進しています。例年、8月上旬に、市内で表彰式が開催され、選者の美帆シボ氏や入選者等とともに、平和の尊さについて考えます。

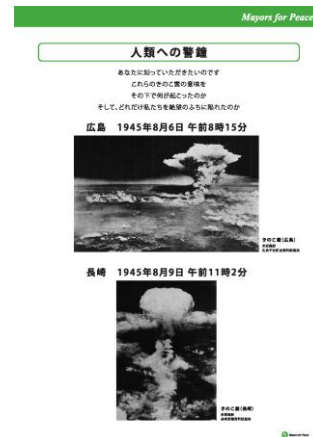
啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑬

戦没者追悼式



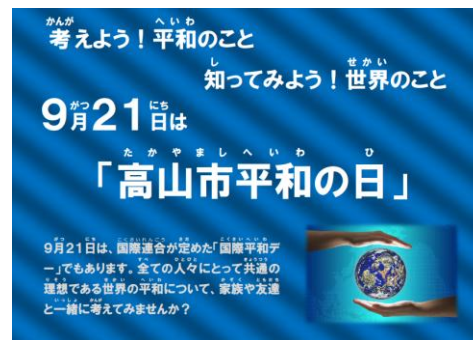
過ぎし幾多の戦争事変において、尊い犠牲となられた市内の戦没者3,200人余の御霊を追悼するため、市主催で開催しています。

原爆ポスター展



「高山市平和の日」である9月21日の前後に、市役所1階ロビー、高山市図書館1階美術展示スペースにおいて、平和首長会議が提供する「ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展」を開催しています。

図書館の平和コーナーの設置



「高山市平和の日」である9月21日の前後に、高山市図書館及び分館、市内小中学校の学校図書室において、平和に関する図書コーナーを設置しています。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)⑭

■小・中学校での平和学習

(中学校)

- ・広島への修学旅行(事前学習、広島平和記念資料館の見学、語り部さんから話を聞く)
※広島への修学旅行は、市内12中学校のうち9校が実施(H27年度)
- ・平和を願って折り鶴を折る(平和記念公園内の原爆の子の像へ捧げる)
- ・平和に関する話し合い、飛騨の戦争について学ぶ、自分たちが目指す平和について考える
- ・地元戦争経験者からの講和
- ・地域のデイサービスセンターでお年寄りに戦争中のお話を聞く
- ・被爆樹木(あおぎり)の植樹
- ・八月の歌(戦争や平和について詠んだ短歌の全国コンテスト)への応募

(小学校)

- ・地元戦争経験者からの講和
- ・6年生を対象に戦争の悲惨さを聞く学習会を実施
- ・道徳の時間で、平和について考える
- ・夏休みに、平和に関することを学習(戦争に関する本を読む、家の人から話を聞く)

■高山市第八次総合計画

2015>>>2024

第3章 分野別計画

6 協働・行政 みんなでつくる持続可能なまち
交流

目指す姿

- 市と姉妹・友好都市等との間において、互いの特徴を活かしながら様々な分野における交流が行われています。
- 都市部などから多くの人に移り住み、地域住民との活発な交流が行われるとともに、移住者の知識や経験がまちづくりに活かされています。
- 国内外に恒久平和実現に向けた情報が発信されています。

目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性

- ・ 都市間交流の推進や異文化に接する機会の提供などにより交流を促進します。
- ・ 都市住民に対する宣伝活動の推進や総合的な移住者への支援などにより移住を促進します。
- ・ 恒久平和実現に向けた情報発信や平和に関する意識の高揚などにより平和への貢献を図ります。

啓発活動(戦争と平和を知る・伝える)①⑥

施策の概要

(1) 交流の促進

- ・ 国内外の姉妹・友好都市等との教育・文化・芸術・産業など様々な分野における交流や新たな都市間交流の推進
- ・ 市民と在住・来訪外国人との交流の促進や国際交流員の招致、民間交流団体への支援などによる異文化に接する機会の提供
- ・ 市民相互のふれあいや世代間交流の促進



■フランス共和国コルマル市・コルマル都市圏共同体との経済・観光協会協定の締結

(3) 平和への貢献

- ・ 「高山市平和の日」の周知や世界の各自治体が加盟する平和首長会議と連携した啓発活動などによる恒久平和実現に向けた国内外への情報発信
- ・ 図書館や学校と連携した啓発活動などによる平和に関する意識の高揚



■小中学生代表による平和へのメッセージ朗読